

# 埼玉県における性器クラミジア抗体検査の状況 (平成27年度)

大島まり子 長谷川紀美子 山本徳栄 青木敦子

Performance of *Chlamydia trachomatis* serological examination in Saitama Prefecture  
(April 2015- March 2016)

Mariko Ohshima, Kimiko Hasegawa, Norishige Yamamoto and Atsuko Aoki

## はじめに

性器クラミジア（以下、クラミジア）感染症は、*Chlamydia trachomatis*を原因とする感染症で、感染症法による五類感染症として定点からの報告が義務付けられている<sup>1,2)</sup>。本県では「埼玉県エイズ及びその他の性感染症等対策要綱」に基づき、保健所で検査の受付を行い、当所で抗体検査を行っている。今回は、平成27年度におけるクラミジア抗体検査の実施状況を報告する。

## 対象及び方法

- 1 対象期間：平成27年4月～平成28年3月
- 2 対象者：保健所で実施する「埼玉県エイズ及びその他の性感染症等対策要綱」による相談・検査受検者のうち、クラミジア抗体検査を希望した者
- 3 検査方法：血清を用い、ELISA法（ヒタザイム クラミジア：日立化成工業）によりIgA及びIgG抗体を測定した。

結果判定は、各々の抗体に対する陽性及び陰性対照血清の測定値から算出したカットオフインデックスにより行い、IgA、IgGのいずれか、または、両方が陽性の場合に陽性検体とした。

## 結果及び考察

年代別・男女別の受検者数を表1に示した。平成27年4月から平成28年3月までの受検者数は662名であり、受検者の年齢は17歳から84歳であった。

受検者数が多かったのは、30歳代の208名（31.4%）及び20歳代の202名（30.5%）であり、これらを合わせると全受検者の6割を占めていた。さらに、17～19歳の受検者は男性2名に対し女性が12名と女性が多かったが、他の年代では男性が多かった。全体では、男性442名（66.8%）、女性220名（33.2%）で、男性は女性の約2倍であった。

表1 年代別・男女別受検者数

年齢(歳)	性別		計(%)
	男性	女性	
17～19	2	12	14(2.1)
20～29	114	88	202(30.5)
30～39	137	71	208(31.4)
40～49	115	37	152(23.0)
50～59	44	10	54(8.1)
60～69	23	2	25(3.8)
70～79	6	0	6(0.9)
80～	1	0	1(0.2)
合計	442(66.8)	220(33.2)	662(100)

抗体別・男女別の検査結果を表2に示した。抗体陽性者は、76名（11.5%）であった。男女別陽性率は、男性6.8%（30/442）、女性20.9%（46/220）で、女性が高かった。抗体別陽性は、IgA陽性が3.3%、IgA・IgG陽性が3.2%、IgG陽性が5.0%と、IgGの陽性率が高かった。各々男女別では、IgA陽性は男性2.5%、女性5.0%、IgA・IgG陽性は男性0.9%、女性7.7%、IgG陽性は男性3.4%、女性8.2%と、IgA、IgA・IgG及びIgGいずれの抗体に対しても女性の陽性率が男性より高かった。

表2 抗体別・男女別検査結果

抗体別	性別		合計(%)
	男性(%)	女性(%)	
IgA陽性	11(2.5)	11(5.0)	22(3.3)
IgA・IgG陽性	4(0.9)	17(7.7)	21(3.2)
IgG陽性	15(3.4)	18(8.2)	33(5.0)
陽性小計	30(6.8)	46(20.9)	76(11.5)
判定保留	12(2.7)	8(3.6)	20(3.0)
陰性	400(90.5)	166(75.5)	566(85.5)
合計	442(100)	220(100)	662(100)

年代別抗体陽性数を表3に示した。年代別陽性率は、50歳代の16.7% (9/54) が最も多く、次いで70歳代が16.6% (1/6) , 20歳代が14.4% (29/202) , 10歳代 (17~19) が14.3% (2/14) であった。

表3 年代別抗体陽性数  
(平成27年4月～平成28年3月)

年齢(歳)	受検者数	抗体陽性数	陽性率(%)
17～19	14	2	14.3
20～29	202	29	14.4
30～39	208	19	9.1
40～49	152	13	8.6
50～59	54	9	16.7
60～69	25	3	12.0
70～79	6	1	16.6
80～	1	0	0.0
全体	662	76	11.5

埼玉県における平成15年度からのクラミジア抗体検査受検者数と陽性率の推移を図1に示した。受検者数は、平成19年度に急増した後は平成22年度まで緩やかに減少し、それ以降は650名前後を変動し現在に至っている。また陽性率は、増減はあるものの15%前後を推移していた<sup>3)</sup>が、本年は11.5%であった。これは、平成15年度以降で最も低い陽性率であった。

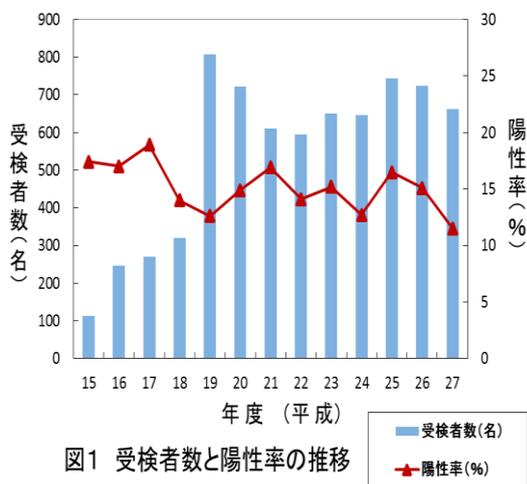


図1 受検者数と陽性率の推移

厚生労働省が公表している平成12年からの性感染症報告数の年次推移を図2に示した。

平成27年のクラミジア感染症報告数は、ピークであった平成14年(43,766名)に比べ約1/2の24,450名に減少したが、性感染症定点報告対象疾患の総報告数における割合は、全国で51.0%<sup>4)</sup>、埼玉県で55.6%<sup>5)</sup>を占め最も多くなっている<sup>2)</sup>。

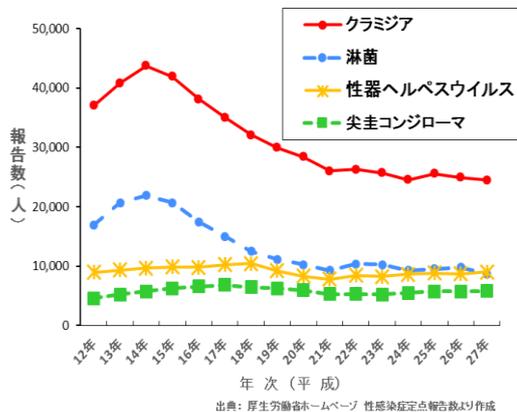


図2 性感染症報告数の年次推移

さらに、クラミジア感染症は、炎症症状が軽度で、感染を自覚されず医療機関を受診しない保有者も多いと思われることから、早期発見に有効な保健所窓口での検査を進めていく必要がある。

文献

- 1) 厚生労働省：性器クラミジア感染症。  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansen-shou11/01-05-31.html>
- 2) 性感染症 診断・治療 ガイドライン 2011：性器クラミジア感染症. 日本性感染症学会誌, 22, 14-18, 2011.
- 3) 大島まり子, 長谷川紀美子, 山本徳栄 他:埼玉県における性器クラミジア抗体検査の状況(平成26年度). 埼玉県衛生研究所報, 49, 57-58. 2015.
- 4) 厚生労働省：性感染症報告数。  
<http://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html>
- 5) 埼玉県衛生研究所感染症情報センター：感染症発生情報 月報. 2016年1月号。  
<http://www.pref.saitama.lg.jp/bo714/surveillahce>